

なぜあなたの仕事は 終わらないのか 中島聡(著)

単行本：288 ページ

出版：文響社

価格：1,518 円 (税込)

はじめに

著者は、マイクロソフト社で Windows 95 の基本設計を担当したエンジニアです。私たちが日常的に使用している「右クリック」や「ドラッグ&ドロップ」といった操作方法を現在の形にした人物でもあります。

日本人とアメリカ人の仕事への取り組み方の違いから導き出された洞察は非常に興味深く、この違いを理解することで、日本人が陥りがちな時間の使い方の誤りが見えてきます。

ラストスパート志向が 引き起こす仕事の遅れ

多くの日本人は締め切り間際に全力を出す「ラストスパート志向」の傾向があります。しかし、ビジネスでは非常に危険な習慣です。

締め切り間際になって予期せぬ問題が発生した場合、対応する余裕がなく、結果として締め切りに間に合わなくなります。また、心理的余裕がない状態では生産性が低下します。

ロケットスタート時間術とは

著者が考案した「ロケットスタート時間術」は、最初の 2 割の時間で 8 割の仕事が終わらせる方法です。これは締め切りを必ず守るための時間術であり、「余裕」を生み出すことが目的です。

著者は仕事の序盤では、アニメ「ドラゴンボール」の「界王拳」のイメージで仕事をしているそうです。初期段階で全力を出し切ることで、後半に余裕が生まれ、仕事の質が向上します。ロケットが発射時に最も多くの燃料を消費するように、プロジェクト初期に最もエネルギーを注ぐべきというわけです。

最初の 2 割の時間で 8 割の仕事が終わらせる方法

例えば 10 日間の仕事であれば、最初の 2 日で 8 割を完成させることを目指します。この 2 日間で集中し、もし 6 割しか終わらない場合は早めに上司にスケジュール変更を申し出ます。

マルチタスクの危険性

マルチタスクは一見効率的に見えますが、実際には集中力を分散させます。特に「ロケットスタート」の段階では、メールチェックや電話対応を避け、本質的な仕事に集中すべきで、できるだけ一つのタスクに集中することが鍵だと著者は説明しています。未完成の状態でも早く形にすることで、全体像を把握できます。Windows 95 のリリース時には 3,500 個ものバグがあったそうですが、予定通りに発売することを優先したという事例も紹介されています。

集中力は好きなことに対して自然と湧き出るものです。自分が最も集中できる時間帯に重要な仕事に取り組み、それ以外の時間には比較的簡単な仕事をこなす習慣が効果的です。

ビジネスパーソンに必要な時間管理術

効率的な時間管理には、チェックリストの作成が有効です。タスクを 15 分単位の小さな塊に分解すると、達成感が得られ、仕事にリズムが生まれます。また、仕事を早く終わらせても早く提出せず、余裕を持って締め切りに間に合わせる事が重要です。早く提出すると次々と仕事を振られ、余裕がなくなるからです。

時間管理の基盤は、締め切りを絶対に守るという強い意識です。この意識があれば、自然と早めに着手する習慣が身につく、仕事の質と効率が向上するでしょう。